

令和3年度 基本施策評価シート

作成日 令和3年 5月24日

基本施策	E3 犯罪のない地域づくりを進めます		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図	
	市民が	犯罪被害にあうことなく、安全・安心に暮らしている。	
長崎市第四次総合計画[後期基本計画] 基本施策掲載ページ		127ページ ~ 128ページ	
基本施策主管課名	自治振興課	所属長名	古賀 陽子
関係課名	こどもみらい課		

基本施策の評価

Ad 目標を達成しているものの、目的達成に向けた課題の克服などが遅れている
<p>判断理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本施策の成果指標のすべてが100%以上の目標達成率となったことから、「A」とする。 ・個別施策の成果指標すべてが100%未満の目標達成率で、目標達成率が95%未満の低いものもあるため「d」とする。 <p>【評価判断に至った成果・効果及び問題点・その要因】</p> <p>(1)新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年行っていた暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議による市民集会や暴力追放パレードは実施できなかったが、防犯パネル展や暴力追放の横断幕の設置、広報紙の作成や地域防犯講座の実施など、防犯啓発活動を行い、防犯意識の向上が図られた。</p> <p>(2)長崎県警察と長崎市との連絡会議は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催できなかったが、書面により課題等について、情報共有を行い、連携を図った。</p> <p>(3)子どもを守るネットワークの活動として、コロナ禍で活動が制限されたものの、全67小学校区において年間を通じ、パトロールが4,478回、情報交換会が397回実施され、地域における見守り活動が実践された。</p> <p>(4)少年補導委員の活動回数に地域でばらつきがあるものの、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じて、できる限りの活動を行った。</p> <p>(5)新型コロナウイルスの感染が拡大するなかにおいても、市内各地区の防犯協会では、防犯パトロールへの支援や防犯啓発活動等が行われ、犯罪の未然防止につながっている。</p> <p>(6)青色回転灯防犯パトロール活動団体については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、年度当初の予定から活動日数が減少した団体が多いものの、活動方法の工夫により地域防犯・パトロール活動が実施された。</p>

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H29	H30	R元	R2	R3
犯罪発生件数(刑法犯罪認知件数)[暦年]	1,874件 (26年)	目標値	1,500	1,400	1,300	1,200	1,200
		実績値	1,431.0	1,251	1,230	912	
		達成率	104.6%	110.6%	105.4%	124.0%	

今後の取組方針

<p>(1)防犯啓発活動の推進を図るため、暴力追放「いのちを守る」長崎市民集会等の暴力追放運動、最新の犯罪情報の提供等による防犯意識の啓発及び青色回転灯防犯パトロールなどの地域における防犯活動の促進のための取組みを行い、市民の自主防犯意識を高め、また、警察や防犯協会などの諸団体との連携・情報交換を促進する。</p> <p>(2)特殊詐欺等の新しい犯罪に対しては、被害の未然防止のため周知啓発等の取組みに努める。</p> <p>(3)地域団体や防犯団体、長崎県警察とのより一層の連携を図る。</p> <p>(4)地域防犯活動の推進を図るため、子どもを守るネットワークによる見守り活動、少年補導委員による補導活動及び防犯パトロールなどの充実を図る。また、これらの活動について市民へ周知し理解を深め、活動への参加促進に努める。</p> <p>(5)地域における自主防犯活動を推進するため、防犯カメラを設置する自治会及び連合自治会に対して、防犯カメラを設置する費用の一部を補助する。</p>
--

二次評価(施策評価会議による評価)

- 基本施策の評価「Ad」については、所管評価のとおり。
- (E3-1)犯罪被害者条例については、「犯罪被害に遭ったとしても安心して暮らせるまち」であることの実現の取り組みのひとつなので、内容を記載すること。
- 暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議については、基金の残高も少なくなる中で、今後の実施の仕方など検討を進める必要がある。

令和3年度 個別施策評価シート

個別施策	E3-1 防犯啓発活動を推進します				
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 象 図			
	市民や事業者が	「自分の安全は、自分で守る」という自主防犯意識を高めている。			
個別施策主管課名	自治振興課	所属長名	古賀 陽子		

令和2年度の取組概要

- ①防犯意識の啓発
- ・暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議による、暴力追放「いのちを守る」宣言を市ホームページに掲載し、周知を図った。
 - ・暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議や自主防犯団体等の活動を紹介する広報紙を作成し、周知を図った。
 - ・防犯パネル展を、市役所本館ロビー及び設置可能な地域センターで実施した。
 - ・新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じて、地域防犯講座を開催し、特殊詐欺等の被害の未然防止について周知啓発を行った。
 - ・長崎市のホームページで、青色回転灯防犯パトロール活動の周知啓発を行った。
 - ・長崎市防犯協会連合会において、長崎市の防犯対策に長年協力いただいた個人に対し、表彰を行った(7名)。
 - ・誰もが犯罪被害者等になり得るとの認識を共有し、犯罪被害者等に寄り添った施策を総合的かつ計画的に推進するため、長崎市犯罪被害者等支援条例を制定した。
- ②防犯団体との連携強化
- ・暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議幹事会を開催し、市民会議の構成団体である地域団体や防犯団体等の事業者団体並びに警察との情報交換を行い、連携を図った。
 - ・例年、各地区で行われていた防犯関係のイベントや会議について、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くが中止になったが、書面による情報共有を行い、連携強化を図った。
 - ・年末には長崎県警察との共催で、防犯を訴えるキャンペーンを実施し、防犯意識の高揚を図った。
 - ・長崎県警察と長崎市との連絡会議は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催できなかったが、書面により課題等について、情報共有を行い、連携を図った。
- ③子ども安全情報の収集及び発信
- ・こどもみらい課で収集した情報をもとに、こどもみらい課と学校教育課(不審者情報等)又は健康教育課(サル等有害鳥獣情報等)において情報の内容について協議・分析し、関係課と連携して、関係機関・団体へ速やかに情報発信を行った。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H29	H30	R元	R2	R3
暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議の暴力追放啓発活動への参加者数	7,484人 (26年度)	↑ 目標値	7,711	7,788	7,866	7,945	7,945
		↑ 実績値	6,372	1,000	1,000	0	
		↑ 達成率	82.6%	12.8%	12.7%	0.0%	
【補助代替指数】 地域防犯講座への参加者数 ※1	322人 (29年度)	↑ 目標値	—	322	322	322	322
		↑ 実績値	—	275	228	62	
		↑ 達成率	—	85.4%	70.8%	19.3%	

※1 暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議の暴力追放啓発活動への参加者数については、啓発事業の見直しを行い、暴力追放啓発書写コンクール事業を廃止した結果、参加者数が大きく減少したため、比較検討ができない。よって、補助代替指標として、地域防犯講座への参加者数を記載した。参加者数の維持を図っていくという考えから、基準値の322人を目標値として設定している。

評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
<p>①防犯意識の啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議や自主防犯団体等の活動を紹介する広報紙を作成、また、暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議による、暴力追放「いのちを守る」宣言を市ホームページに掲載し、長崎を暴力のない安全で安心なまちにしたいという想いやいのちの大切さを発信することができた。 ・防犯パネル展について、4月の暴力追放強調月間及び10月の全国地域安全運動期間中には、市役所本館及び地域センターで開催し、より多くの市民に啓発を図る機会を創出した。 ・長崎市のホームページで、青色回転灯防犯パトロール活動の紹介を行うことで、自主防犯活動の啓発にもつながった。 	<p>様々な取組みにより、市民や事業者が啓発活動に触れる機会が増えたことで、自主防犯意識の向上につながった。</p>
<p>②防犯団体との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年、各地区で行われていた防犯関係のイベントや会議について、新型コロナウイルス感染拡大防止のため多くが中止となったが、書面による情報共有を行うとともに、年末には長崎県警察との共催で、防犯を訴えるキャンペーンを実施、地域団体や防犯団体との連携強化、防犯意識の醸成が図られた。 ・長崎県警察と長崎市との連絡会議は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催できなかったが、書面により課題等について、情報共有を行い、連携が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域団体や防犯団体との連携が強化され、情報共有や機運醸成が図られたことにより、自主防犯意識の向上につながった。 ・警察との情報共有や連携強化が図られた。
<p>③子ども安全情報の収集及び発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者情報73件、サル等有害鳥獣情報28件を発信し、注意喚起を行った。 	<p>防犯・安全意識の高揚に寄与できた。</p>

評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
<p>①防犯意識の啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な機会を捉えて防犯意識の啓発に取り組んでいるが、コロナ禍のなか、対面での講座開催など、取組みが難しい場合がある。 ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、暴力追放「いのちを守る」長崎市民集会在開催できなかった。 ・依然として、高齢者をはじめ、特殊詐欺等の被害が続いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに周知・啓発に取り組んでいく必要があるが、多くの人に広げていく仕組みが十分でない。 ・犯罪が巧妙化、複雑化している。
<p>③子ども安全情報の収集及び発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者情報の発信について、迅速な情報発信が難しい場合がある。 	<p>不審者情報の提供にあたり、プライバシーへの配慮などの観点から、保護者等へ情報発信の同意確認や関係課との協議に時間を要するため。</p>

今後の取組方針

①防犯意識の啓発

- ・暴力追放「いのちを守る」長崎市民集会等の暴力追放運動、最新の犯罪情報の提供等による防犯意識の啓発、防犯パネル展の開催などにより、防犯啓発活動の推進を図り、市民の自主防犯意識を高める。
- ・暴力追放運動については、市民も参加しやすい継続的な取組みとするとともに、さらに、運動を広げていくための効果的な取組みを検討する。また、若い世代の参加を促すために、周知・広報の様々な方法を検討する。
- ・特殊詐欺等新しい犯罪に対しては、警察と連携した防犯講座やHP等を活用し、被害の未然防止のため周知啓発等の取組みに努める。
- ・犯罪被害者等に対して総合相談窓口の設置や経済的負担軽減等の支援を行い、被害からの回復・軽減を図るとともに、市民や事業者に対して広報啓発を行い、犯罪被害者等への理解の促進を図る。

②防犯団体との連携強化

- ・暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議の構成団体である地域団体や防犯団体等との連携、情報交換を促進するとともに、長崎県警察とのより一層の連携を図る。

③子ども安全情報の収集及び発信

- ・子どもの安全確保の重要性から、小・中・高等学校との連携を深め、スムーズな情報収集と適切な情報発信に努める。

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	令和元年度	令和2年度
1	(事業名) 暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議事業費負担金 【自治振興課】 (事業目的) 暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議による活動への支援を行う。 (事業概要) ①市民集会の開催 ②広報啓発活動 ③構成団体相互の情報交換と連携強化	実施年度	継続	
		成果指標	暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議の暴力追放啓発活動への参加者数	
		目標値	1,000 人	1,000 人
		実績値	1,000 人	0 人
		達成率	100.0 %	0.0 %
		決算(見込)額	350,854 円	60,950 円
		成果指標及び目標値の説明	防犯意識の啓発を目的に行っている暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議の暴力追放啓発活動への参加者数を成果指標とした。市民集会及び暴力追放パレードの参加者の前年度実績値1,000人を目標値とした。	防犯意識の啓発を目的に行っている暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議の暴力追放啓発活動への参加者数を成果指標とした。市民集会及び暴力追放パレードの参加者の前年度実績値1,000人を目標値とした。
取組実績、成果・課題等	(取組実績) 令和元年5月11日に市民集会及び暴力追放パレードを実施した。 ・参加者数：約1,000人 (成果・課題等) 市民集会の開催による暴力追放に向けた機運醸成が図られた。 今後も、暴力追放に向けて継続して活動を行うとともに、継続することの重要性を発信し、活動への市民参加促進に努める必要がある。	(取組実績) 令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、暴力追放「いのちを守る」長崎市民集会は中止しており、実績値がゼロである。さらに、地域防犯講座もあまり実施できなかったが、防犯パネル展や暴力追放の横断幕の設置、広報紙の作成など、防犯啓発活動を行い、防犯意識の向上が図られた。 (成果・課題等) 今後も、暴力追放に向けて継続して活動を行うとともに、継続することの重要性を発信し、活動への市民参加促進に努める必要がある。 また、コロナ禍においても工夫して、暴力追放の啓発に取り組んでいく必要がある。		

令和3年度 個別施策評価シート

個別施策	E3-2 地域防犯活動を推進します		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図	
	地域が	「自分たちのまちは、自分たちで守る」という自主防犯活動を行っている。	
個別施策主管課名	自治振興課	所属長名	古賀 陽子

令和2年度 of 取組概要

- ①子どもの見守り活動の推進
 ・子どもを守るネットワークの活動として、コロナ禍で活動が制限されたものの、全67小学校区において年間を通じ、パトロールと情報交換会を実施した。
- ②青少年の非行防止活動の推進
 ・256名の少年補導委員(年間延2,781名)が、子どもの非行防止のため、「愛の一声」を中心とした補導活動に取り組んだ。
 ・少年補導委員の資質の向上を目指して、夏季研修会を実施した。また、コロナ禍という状況を鑑み、毎年行っていた市全体での意見交換会を地区別に切り替え実施した。
- ③自主防犯活動への支援
 ・犯罪の抑止に効果が高い自主防犯活動の一つである青色回転灯防犯パトロール活動団体や市内各地区の防犯協会等への財政的支援を行った。各地区の防犯協会等では、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じたうえで防犯活動の促進に努めた。
 ・青色回転灯防犯パトロール活動団体等の自主防犯団体との連携強化に努め、団体の概要や活動状況等の情報共有を図るとともに、それらの情報を広報紙やホームページで発信した。
 ・公用車による青色回転灯防犯パトロールについて、登録車両を増やし、併せて、市職員への講習会を実施するなど、実施体制の整備を図った。
 ・不審者情報を庁内で共有した。
- ④暴力団等排除の推進
 ・市が実施する補助事業などの情報を警察等の関係団体と共有し、市の事業への暴力団等の排除に努めた。

成 果 指 標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H29	H30	R元	R2	R3
子どもを守るネットワークパトロール実施回数	6,099回 (23~26年度平均)	↑ 目標値	6,100	6,100	6,100	6,100	6,100
		実績値	6,055	6,856	6,658	4,478	
		達成率	99.3%	112.4%	109.1%	73.4%	
少年補導委員の活動人数	4,979人 (26年度)	↑ 目標値	5,400	5,700	6,000	6,300	6,300
		実績値	4,343	4,436	4,175	2,781	
		達成率	80.4%	77.8%	69.6%	44.1%	
青色回転灯防犯パトロール活動団体数	21団体 (26年度)	↑ 目標値	22	23	23	24	24
		実績値	20	20	20	20	
		達成率	90.9%	87.0%	87.0%	83.3%	

評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
<p>①子どもの見守り活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもを守るネットワークの活動として、コロナ禍において活動が制限された中でも少人数で見守り活動を行うなど工夫し、全67小学校区において年間を通じ、パトロールが4,478回、情報交換会が397回実施され、地域における見守り活動が実践された。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが安全に、かつ、安心して過ごすことができる住みよいまちづくりに寄与した。
<p>②青少年の非行防止活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で活動が制限された中にも、256名の少年補導委員(年間延2,781名)が、977回の補導活動を行い、2,144名の少年に「愛の一声」をかけ、子どもの非行防止に取り組んだ。 例年実施していた市全体での意見交換会を地区別に変更したことで参加者が増え、夏季研修会も含め、補導活動の充実につなげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 少年の健全育成と非行防止が図られた。
<p>③自主防犯活動への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 広報紙やホームページにより、青色回転灯防犯パトロール活動の内容やその効果を発信したことで、地域防犯活動の周知が図られた。 各地区の防犯協会が行うパトロールや防犯啓発活動等を支援し、犯罪の未然防止につながった。 公用車による青色回転灯防犯パトロールについて登録台数を65台に増やし、併せて126人の市職員に対し、パトロールを実施するための研修を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 自主防犯活動が地域に浸透し、犯罪の未然防止につながったことで、地域住民の自主防犯活動が継続的なものとなった。 公用車による青色回転灯防犯パトロールについて、実施体制の整備が図られた。
<p>④暴力団等排除の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 市が実施する補助事業などについて、県警に暴力団等照会を行い、暴力団等でないことを確認することによって、暴力団等の介入を防ぐことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 市が実施する補助事業などについて、暴力団等排除の推進が図られた。

評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
<p>①子どもの見守り活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動を行う人の固定化が顕著となっている。 子どもに対して目を配るべき要素が増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人の繋がりが希薄になってきている。 近年、特にSNSを起因とする問題が増加し、通常のパトロール活動だけでは発見しづらくなってきている。
<p>②青少年の非行防止活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般補導委員と中学校補導委員との連携による補導活動の実施ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 補導活動の時間調整が困難である。
<p>③自主防犯活動への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で活動日数が減少した団体も多く、また、自主防犯活動の担い手も固定化する傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化などの要因により、地域活動の担い手が不足しているところもある。

今後の取組方針

①子どもの見守り活動の推進

・引き続き子どもを守るネットワーク活動への支援を行うことで、家庭や地域社会全体で安全・安心なまちをつくるという意識を高め、更に活動を活性化する。

・子どもが事故や犯罪に巻き込まれる原因となるものを未然に防ぐため、機会をとらえて子どもを守るネットワークに対し情報提供・注意喚起を行う。特に近年増加傾向にあるSNSを起因とする問題について情報提供・注意喚起を行う。また、コロナ禍での活動について、工夫した事例等も情報提供を行い、活動の充実を図る。

②青少年の非行防止活動の推進

・コロナ禍という状況を鑑み、毎年行っていた市全体での意見交換会を地区別に切り替えて実施したことで、参加者が例年よりも多かったことから、さらなる少年補導委員の資質向上と補導活動の充実につなげるため、今年度も継続していく。

・補導のあり方について、研修会等で一般補導委員と中学校補導委員とが意見交換を行い連携を深める。

・問題行動や初発型非行の防止に取り組むため、少年センターにおいて関係機関及び関係団体・店舗等と連携し、情報収集を行うと共に少年補導委員への情報提供や注意喚起、少年補導のポイント等を周知する取組みを推進する。

③自主防犯活動への支援

・地域の防犯力の向上を図るため、青色回転灯防犯パトロール活動団体や市内各地区の防犯協会に対する連携・支援を継続することにより、地域防犯活動の継続・強化など犯罪に強いまちづくりへの取組みを推進する。

・新規隊員加入及び新規団体設立を促すために、引き続き、ホームページ等による青色回転灯防犯パトロール活動の効果や実施状況についての広報を行う。

・公用車による青色回転灯防犯パトロールについては、引き続き、車両の整備と職員の育成により活動の拡大を図り、地域防犯活動の充実を図る。

・地域における自主防犯活動を推進するため、防犯カメラを設置する自治会及び連合自治会に対して、防犯カメラを設置する費用の一部を補助する。

④暴力団排除の推進

・暴力団排除条例に基づき、暴力団排除活動を推進し、安全で安心して暮らせる地域社会づくりを推進する。

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード：E3-2】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	令和元年度	令和2年度		
1	<p>(事業名) 子どもを守るネットワーク推進費</p> <p>【こどもみらい課】</p> <p>(事業目的) 地域内の団体・組織・個人などが連携し、子どもたちが安全に、かつ、安心して過ごすことができる住みよいまちづくりを実現する。</p> <p>(事業概要) 子どもを守るネットワーク活動に対する助成を行う。</p>	実施年度	継続			
		成果指標	子どもを守るネットワークパトロール実施回数			
		目標値	6,100 回	6,100 回		
		実績値	6,658 回	4,478 回		
		達成率	109.1 %	73.4 %		
		決算(見込)額	6,434,321 円	5,978,151 円		
		成果指標及び目標値の説明	<p>実施回数の維持により、子どもの安全を地域で見守る活動が定着していると考えられるため、子どもを守るネットワークパトロール実施回数を成果指標とした。</p> <p>平成23年度から平成26年度の平均値6,099回を維持することを目標値としており、令和元年度は6,100回を目標値とした。</p>	<p>実施回数の維持により、子どもの安全を地域で見守る活動が定着していると考えられるため、子どもを守るネットワークパトロール実施回数を成果指標とした。</p> <p>平成23年度から平成26年度の平均値6,099回を維持することを目標値としており、令和2年度は6,100回を目標値とした。</p>		
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 市内68小学校区の子どもの安全を守るネットワークに対し、巡回・交流活動費を助成した。また、ネットワーク活動の共通理解を図るため、代表者会を1回開催した。</p> <p>(成果・課題等) パトロールが6,658回、情報交換会が688回実施され、地域における子どもの見守り活動ができた。パトロールの実施回数は、目標値を達成したが、活動を行う人の固定化が進んでいる。また、近年子どもの痛ましい事故が増えている。目を配るべき要素が増えてきている。</p>	<p>(取組実績) 市内67小学校区の子どもの安全を守るネットワークに対し、巡回・交流活動費を助成した。また、ネットワーク活動の共通理解を図るため、代表者会を1回開催した。</p> <p>(成果・課題等) パトロールが4,478回、情報交換会が397回実施され、地域における子どもの見守り活動ができた。パトロールの実施回数は、目標値を達成できなかったが、コロナ禍の中で少人数で見守り活動を行うなど工夫して活動を行うことができた。しかし、課題として、活動を行う人の固定化が進んでいる。</p>		
		2	<p>(事業名) 少年センター相談・補導活動費</p> <p>【こどもみらい課少年センター】</p> <p>(事業目的) 少年補導委員による街頭補導や相談活動を行い、少年の健全育成と非行防止を図る。</p> <p>(事業概要) 補導業務の充実、相談業務の充実、環境浄化の推進、情報の収集、提供を行い、関係機関との連携に努める。</p>	実施年度	継続	
				成果指標	少年補導委員の活動延人数	
目標値	6,000 人			6,300 人		
実績値	4,175 人			2,781 人		
達成率	69.6 %			44.1 %		
決算(見込)額	14,182,589 円			13,491,252 円		
成果指標及び目標値の説明	<p>少年補導委員の活動人数が増加することで、青少年の非行防止と健全育成が図られていると考えられるため、声かけ活動を行った少年補導委員の延べ人数を成果指標とした。</p> <p>令和2年度に全補導委員の活動回数を月2回とすることを目標値としており、段階的に実施するため令和元年度は6,000人を目標値とした。</p>			<p>少年補導委員の活動人数が増加することで、青少年の非行防止と健全育成が図られていると考えられるため、声かけ活動を行った少年補導委員の延べ人数を成果指標とした。</p> <p>令和2年度に全補導委員の活動回数を月2回とすることを目標値としており、段階的に実施するため令和2年度は6,300人を目標値とした。</p>		
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 延4,175人の補導委員が活動し、少年4,120人に声掛けを行った。新任補導委員に対する事前研修会に17人、夏季・冬季研修会に199人の参加があった。</p> <p>(成果・課題等) 年間を通し少年補導委員が愛の声かけを行い、虞犯・不良行為の早期発見、少年の非行化の防止に寄与することができた。学校補導委員については、少年補導委員との連携・協働を推進し、活動の活性化を図っている。</p>			<p>(取組実績) 延2,781人の補導委員が活動し、少年2,144人に声掛けを行った。新任補導委員に対する事前研修会に19人、夏季研修会に75人の参加があった。</p> <p>(成果・課題等) コロナ禍にあって活動が制限された中ではあったが、年間を通し少年補導委員が愛の声かけを行い、虞犯・不良行為の早期発見、少年の非行化の防止に寄与することができた。学校補導委員との連携を強化すべく、研修会のあり方を検討していく。</p>		

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	令和元年度	令和2年度
3	(事業名) 青色回転灯防犯パトロール活動費補助金 【自治振興課】 (事業目的) 青色回転灯防犯パトロール活動団体への支援を行う。 (事業概要) 地域の防犯ボランティア団体が行う青色回転灯を装着した車による防犯パトロール活動に係る経費の一部を支援する。	実施年度	継続	
		成果指標	青色回転灯防犯パトロール活動団体数	
		目標値	23 団体	24.0 団体
		実績値	20 団体	20.0 団体
		達成率	87.0 %	83.3 %
		決算(見込)額	540,750 円	472,000 円
		成果指標及び目標値の説明	地域の安全を守るために活動している青色回転灯防犯パトロール活動団体数を成果指標とした。基準値を21団体(平成26年度)とし、2年度ごとに1団体増とする目標値を設定しており、令和元年度は23団体とした。	地域の安全を守るために活動している青色回転灯防犯パトロール活動団体数を成果指標とした。基準値を21団体(平成26年度)とし、2年度ごとに1団体増とする目標値を設定しており、令和2年度は24団体とした。
		取組実績、成果・課題等	(取組実績) 活動団体数:20団体 補助金交付団体:14団体 活動延べ日数:1,965日 活動延べ台数:2,163台 (成果・課題等) 青色回転灯防犯パトロール活動により、地域の安全・安心まちづくりの推進が図られた。隊員の高齢化等による団体活動継続の問題が顕在化していることから、新規団体設立や担い手不足の解消につながる広報活動に取り組んでいく必要がある。	(取組実績) 活動団体数:20団体 補助金交付団体:13団体 活動延べ日数:1,691日 活動延べ台数:1,888台 (成果・課題等) 青色回転灯防犯パトロール活動により、地域の安全・安心まちづくりの推進が図られた。隊員の高齢化等による団体活動継続の問題が顕在化していることから、新規団体設立や担い手不足の解消のため、現在取り組んでいる広報紙やホームページへの掲載以外にも各種広報活動に取り組んでいく必要がある。